



のすくらむ

古手神社で
密かに行われる精流し祭2

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

とある田舎の村では綿流しというお祭りがある。
それは村から集めた布団や襦袢を、
古手神社の巫女が祭儀用の鍬で切り裂き、
小さく丸めた綿に願い事や一年のけがれを込めて
川に流す。一年間の自身の失敗・不十分な出来事を
反省し、明るい新たな年を迎えられるようにする
意味がある、そして「奉納演舞」と呼ばれている儀式が
祭りの最後に行われる。
それで祭りは終わり・・・ではなく、
祭具殿と呼ばれる場所でオヤシロ様の巫女に
認められた男性が集まる裏の祭り、精流し祭りが
行われるのだった・・・

しかしその巫女の気まぐれで選ばれなかった者たちもいた。
オヤシロ様の巫女に選ばれなかった
負け犬のマゾは離見沢集会所に集まるのである。

あらあら恥ずかしげもなくパンパンの
キンタマをスッキリさせたくて
ここに来たんですのね。



ふふ、良いですよ、
私がそのはしたないおちんちんを
ぴゅっ♡ぴゅっ♡させてあげますわ♡



「精流し当日」

ふふ、今日は面白いゲームをしますわよ、
私の左右の手で同時に手コキして、
どちらが先に射精するかを競う、

早漏我慢ゲーム♡

勝った方は…
私のお口で可愛がって差し上げますわ♡

ニやん…♡

ニやん…♡

ニやん…♡



あらあらお二人とももう勃起なさって♡
でも右の方のおちんちんは勃起しても
皮は剥けないし小さいままですわね…

左の方は偉そうにも
なかなか大きいですこと…

ニちゃん…♡

ニちゃん…♡

ニちゃん…♡

スタートしますわね、右手の粗チン、
左手のデカチン。公平に扱ってあげますわ…

三ちゃん…

沙都子はローションをたっぷり塗り、
右手を包茎おちんちんに巻きつけた。
皮を優しく剥きながら、ゆっくりと
上下に動かす。左手はデカチンを強く握り、
速いリズムでしごく。意地悪く、彼女は
包茎おちんちんを特に優しく剥いたり
被せたり、敏感な部分を狙って刺激した。

包茎おちんちんの男はすぐに息を荒げた。
沙都子の柔らかな手が、包茎の先端を
こねるように動かたび、甘い快感が
走り、我慢汁が滴り始める。

一方、デカチンは余裕を見せていたが、
沙都子の左手が速く動き、
徐々に顔が歪み始める。

沙都子は笑みを深め、粗チンをさらに
意地悪く扱く。皮を剥いてカリを
露出させ、親指で先端をくすぐる。

ニちゃん……♡

ニちゃん……♡

包茎おちんちんの男の体がビクビクと震え、
限界が近づく。

沙都子はわざとペースを
緩めたり速めたりして彼をからかう。

デカチンは耐えていたが、包茎おちんちんは
ついに耐えきれなくなった。

トちゃん……♡

トちゃん……♡

トちゃん……♡



粗チンが痙攣し、情けなく
白い液体が噴き出す。
沙都子はニヤニヤと笑う。

ふふ、粗チンがやはり先に負けたわ、
情けない射精ですこと…





沙都子はデカチンに近づき、膝をついた。
彼女の白い手がデカチンを優しく握り、
ゆっくりと扱き始め、そして唇を近づける。

勝者にはご褒美ですよ、私のお口で
気持ちよくしてあげますわ。

うっしょっ
ぢゅぽっ

うっしょっ

ぢゅぽっ

沙都子の舌がデカチンを這い、
ゆっくりと咥え込む。男はうめき声を上げ、
快感に身を委ねる。

彼女の頭がリズムカルに動き、
太いものを口で深く咥え込むたび、
彼の息が荒くなる。

舌先が亀頭の縁を円を描くように這い、
時折軽く吸い付くようにして敏感な部分を
刺激する。

ざっっっ

男は低くうめき、腰をわずかに動かすが、
沙都子はそれを許さず、深く唾え込む。

温かく湿った甘い感触が
デカチンを包み込む。
舌が裏筋を執拗に擦り、唾液が
滴り落ちる音が部屋に響く。

ざっっ

男は我慢出来ずに、沙都子の口の中で
射精する瞬間が訪れる。

ぎゅっ

彼女は一気に深く啜え込み、
デカチンが脈打ち、熱い液体が
彼女の喉に流れ込む。

ひゅるるる

ひゅるる

ひゅ

沙都子は静かに白濁を飲み続ける...

ぷはあ...♡

たくさん出ましたわね...♡ ぎゅっ



くちゅ...くちゅ...

くちゅ...くちゅ...

やれやれ...私のフェラを見てまた情けなく
包茎おちんちん勃起してますのね...

いいですわよ、オナニーしなさいな♡
じっくり見ていてあげますから...♡



彼は先端の敏感な部分を軽くこすると、
すでに我慢汁が溢れ出し、指に絡みつく。
羞恥で顔を歪めながら、
彼はゆっくりと手を動かし始めた。

くちゅ…

くちゅ…



自分の粗チンを強く握り潰すように扱く。
快感と屈辱が混じり合い、膝がガクガクと
震え、床に我慢汁が滴り落ちる。

ぽちっ

ついに限界を迎え、粗チンが小さく痙攣し、
薄い精液が指を伝って床に散らばった…

くちっ…

くちっ…

くちゅ...くちゅ...

あはは...出てますわ...
負け犬ザーメン♡

とっても気持ちいいでしょうっ?

くすくす...情け無いですわ♡





薄暗い部屋に、男は寝かされていた。
目の前には、沙都子が冷やややかな笑みを
浮かべている。

ふふ、あなたは足で射精させてあげますわ♡

彼女の足が動き始め、つま先で
亀頭を優しくこする。
彼の敏感な部分を刺激し、
すぐに先走りが滲み出す。



沙都子は足の裏を滑らせ、
太い幹をゆっくりと挟み込むように
扱き始めた。

足の指が器用に動いて裏筋をなぞり、
時折つま先で先端を軽く弾くたび、
男の息が荒くなる。



彼の太ももが震えて、沙都子の足の裏が
ぬるりと滑り、摩擦が彼をさらに追い詰める。
彼女はリズムカルに足を動かして、
時には強く締め付けるように圧迫し、
時には緩めて焦らす。

男のうめき声が部屋に響き、
彼のおちんちんが沙都子の足に
擦れるたび、透明な液体を垂れ流す。



彼女はつま先で先端を執拗にこね回し、最後に強く挟み込むと、男の体が硬直した。

熱い白濁が沙都子の足に飛び散り、彼は快感で悶える。沙都子は足をゆっくり引き、冷たく笑う。

他愛無いおちんちんですこと…♡♡
マゾを射精させるのは簡単ですよ♡♡





ふふ、セックスして欲しいなんて
随分偉そうですね…

沙都子は目を細め、じっと粗チンを観察する。
彼女の視線がその小さな先端を這い、
冷たく見下ろす。

ビクッ

ジュッ

じ…〜♡

こんな粗末なおちんちんで
私を満足させられるのかしら？

彼女は少し身を乗り出し、指先で軽く
その先端を突くように触れる。
おちんちんがビクツと反応すると、
沙都子は冷笑を深める。

ほら、こんな軽く触られるだけで
我慢汁が滲んでくるなんて…

ビクッ

ジュッ

じ…〜♡

まあいいですわ、
それじゃあセックスさせてあげますから
目隠しをつけて買いますわよ。



それじゃあ、挿入しますわよ♡

男は期待と緊張で体が震える中、
ぬるぬるとした感触が広がり男は
夢中になって腰を動かす。
温かく柔らかなものがおちんちんを
包み込み、快感が全身を駆け巡る。

しかし、彼女の手には、
実はオナホールが握られており、
粗チンをその中に差し込んでいたのだ。

彼女は意地悪な目でその姿を見つめ、
時折ホールを動かして刺激を加える。
男が喘ぐたび、彼女はくすくすと笑いを
抑えきれなかった。



沙都子はホールをさらに速く動かし、
内部の突起がおちんちんの敏感な
部分を擦る。
男は快感に溺れ、腰を振って喜びの声を
あげる…

びゅるびゅるびゅる…
そして惨めにオナホールの中に
射精してしまう…

あはは！気持ちよかったですの？
それは良かったですわ♡

彼は幸せを感じながら
射精の余韻を感じていた…





薄暗い部屋に、男はベッドに仰向けに
拘束され、沙都子の冷ややかで
支配的な視線に晒されていた。

むにむに

彼女は冷たいローションをたっぷりと
手に取った。粘り気のある液体が
彼女の指先から滴り落ち、
太ももの内側に艶やかに広がる。

今日はローション素股で
たっぷり遊んであげますわ。



沙都子は優雅に男の腰に跨り、
ローションを両手のひらに広げてから、
太ももの内側にたっぷり塗り込んだ。

むにむに

くちゅ

くちゅ

ぬるぬるとした感触が彼女の肌を光らせ、
太ももが互いに擦れ合うたび、
淫靡な音が微かに響く。

むにむに

彼女はおちんちんを両太ももの間に
そっと挟み込み、ゆっくりと腰を
前後に動かし始めた。

ローションが泡立ち、おちんちんの先端が
彼女の柔らかな内ももに擦れるたび、
熱い快感が背筋を駆け上がる。



彼女は意地悪に腰を揺らし、
時折太ももをきつく締め付けて

おちんちんの敏感な部分を執拗に圧迫する。
ぬるぬるとした感触に包まれるたび、
彼の体がビクンと跳ねる。

彼女の太ももの柔肉の摩擦が強まり
卑猥な水音が部屋に響き渡る。

沙都子は腰の動きを速め、
太ももの間でさらに強く擦る。

時折お尻でおちんちんを
ぐりぐりと踏みつけると、
男は快感に悶える。

うちゃ

うちゃ

限界に近づき、ローションと我慢汁に
まみれたおちんちんが痙攣し、

熱い白濁が太ももの間に勢いよく飛び散る
男は無様に腰を震わせ、射精を続けた…

あらあら…
オマンコがすぐ近くにあるのに
可哀想ですわね、擦られるだけで
射精してしまいましたわ♡

ドクッ
ドクッ

うちゃ

うちゃ





薄暗い部屋に、男は緊張と抑えきれない欲望で全身が震えながら立っていた。

去年から北条沙都子とのセックスを夢見て、射精を我慢し続けてきた彼の体は限界を超えた興奮状態にあった。

目の前には、沙都子が金髪を淫らに揺らし、普段の無邪気な笑みを意地悪く歪めた表情で待つ。ゆっくりと男に近づく。

あなたは梨花じゃなく私とセックスしたくて去年からずっと射精を我慢してたんですって？

ふふ…♡

しよぅがないですわね…♡

ご褒美に童貞卒業

セックスしてあげますわ…♡

沙都子は男をベッドに押し倒し、情けなく勃起してるおちんちんを鷺づかみにした。彼女の指が皮を剥き、先端の敏感なカリを執拗に擦ると、

男は声を漏らし、腰が勝手に跳ねる。

それじゃあ一年間オナ禁おちんちんを私のオマシコで童貞卒業させてあげますわ♡
沙都子は腰を下ろし、おちんちんを自分の濡れた秘部に擦り付けた。

おちんちんと彼女の愛液が混じり合い、ぬちゃぬちゃと卑猥な音が部屋に響く。

彼女は意地悪に腰をグラインドさせ、熱く濡れた感触がおちんちんを責める、彼の体がビクビクと痙攣する。

熱く締め付ける内壁がおちんちんを
包み込み、彼女の腰が激しく上下に動き出す。
膣がおちんちんを締め付け、
又チャ又チャと水音が響き、男は叫び、
快感に溺れる。

男はすぐに限界を迎え、
熱い白濁が彼女の中に勢いよく進む。

射精が止まらず、おちんちんが
脈打ちながら彼女の奥を満たす。

ふふ…出てますわね、たくさん…
全部出していいんですのよ…♡♡

沙都子は笑いながら、両手で自分の秘部をクパアと広げた。濡れた内側から、男の白濁した精液がゆっくりと溢れ出し、彼女の太ももを伝って滴り落ちる。

粘り気のある液体が、卑猥な光沢を帯びて溢れ出る。彼女は指でその精液をすくい取り、わざとらしく広げて見せつけ：

どろー
ビクッ
ビクッ

これが一年分の精液ですわね…♡
濃厚ですこと…

また来年まで射精我慢できますの…？
そしたらまた…
ふふ…♡

どろー
ビュッ
ゴッ







































